

大学満足度が学業成績および人生満足度に与える影響

吉 村 英
(本学教授)

本研究の目的は、大学への満足および不満足について言及された自由記述のデータをテキストマイニングの手法によって分析し、大学満足度が人生満足度および学業成績にどのような影響を与えているかを実証的に検討することにある。また大学への満足および不満足への言及が、不安意識、大学生生活満足度、キャリア意識、幸福感などにどのような影響を与えているかについても検討を行う。

文部科学省が公表した平成30年度学校基本調査(速報値)によれば、平成30年度の大学・短大進学率は57.9%、大学(学部)進学率は53.3%であり、いずれも過去最高となっている。少子化と大学の入学定員の拡大を背景としたいわゆる大学全入時代を迎え、大学教育の質保証が重要な課題となっている。中央教育審議会が2008年にまとめた「学士課程教育の構築に向けて」という答申では、学士課程の中で身に着けるべき能力を「学士力」とし、その内容の参考指針が示された。各大学には自主的な改革を通じ「学士力」を保証するための枠組みづくりを促進することが求められている。

大学進学率の増加や入試方法の多様化により、入学してくる学生の学力、意欲、目的、学習習慣なども多様化している。多様化した学生に対して「学士力」を保証するためには、どのような特徴を持った学生集団が存在しているかを明らかにする必要がある。また学生が大学での学びをどのように受け止め、どのように考えているか、何に満足し、何に不安や不満を持っているかを明らかにすることも重要であると思われる。

学生の満足度に関しては、これまでさまざまな要因について検討が行われてきた。安田・若杉・榊原(2007)は「友人」、「自由」、「講義内容」、「サポート制度」、「学食・購買」の5尺度を使用して大学生の満足感を検討している。共分散構造分析の結果は、大学生の満足感が対人関係や教育環境よりも講義内容や学部満足感との関係性が高いことを示唆していた。名木田・松本・所司・天野・重田・山口(2011)は学生の満足度を「教育体制・カリキュラム」、「授業」、「学生生活」、「大学による各種支援」、「施設・設備」、「全体評価」、「寮生活」の7区分に分けて調査を行った。分析結果から授業改善や支援体制の強化が満足度を向上させること、授業満足度や教員の対応が重要な要因であることなどが明らかとなった。田川(2011)は学生満足度を測定する観点として「授業」、「行事」、「人間関係」、「大学周辺の環境」、「大学内の環境」、「施設・設備」、「事務」、「知名度」、「卒業後の進路」などの項目をあげている。調査結果から友人、クラスメート、教員との人間関係の満足度が高いこと、大学の周辺環境や大学の知名度に対する満足度は低いことなどが明らかとなった。また性別や学科別によって満足度が異なる傾向があることも示された。鈴木・遠藤(2015)は学生の満足度を規定する要因として「正課活動」、「課外活動」、「個性的な教育」、「人間関係」、「大学への意識」、「21世紀型能力」の6つの視点を取り上げ検討を行った。その結果、学生の満足度を規定する要因として正課活動、課外活動、個性的な教育の重要性が明らかとなった。

この他にも、学生の満足度についてはさまざま

まな研究が行われており、興味深い結果が得られている。しかしながらこれらの研究で得られたデータは、主として評定尺度法によって得られた定量的データである。評定尺度法には回答が容易であり多様な統計的処理が行えるという利点もあるが、質問項目に設定されていない内容は測定できないという不利な点もある。この点を補うには自由記述データの活用が重要であると考えられる。自由記述には研究者が見落としていた視点について述べられていることや、より具体的な内容が記載されていることがあるからである。その一方で自由記述データは統計的に分析することが難しいとされてきた。上記の研究でも自由記述データを収集しているものがみられるが、処理方法としては研究者が主観で分類したり、特徴的な回答を取り上げる程度にとどまっているものが多い。しかしながら近年自由記述のデータから有益な情報を抽出するための方法として、テキストマイニングの手法が注目されるようになってきた。テキストマイニングは文章（テキスト）から有益な情報を抽出するためのさまざまな方法の総称であり、自然言語処理、統計解析、データマイニングなどの基盤技術からなっている。この手法を活用すれば、大量のテキストデータを効率的、客観的に分析することができる。

安田（2011）は、大学生がどのような状況でどのような時に満足感を得ているかを検討するために、自由記述による回答を求め、テキストマイニングによる分析を行った。具体的には「友人」、「自由」、「講義内容」、「サポート制度」、「学食・購買」、「全体的満足感」について自由記述による回答を行わせ、設問別にキーワードの抽出を行った。さらに得られたキーワードを用いて、「享受」、「学問」、「便益」、「全体的満足感」の各概念を構成するキーワード間の関係性を明らかにした。この結果から、安田（2011）は自由記述回答による分析が、「学生たちからの直接的な意見を知り、教育者や研究者の立場からは見落としがちな新たな意見を窺い知る一つ的手段として有効である」と述べている。確かに安田（2011）の研究は、学生の満足度を検

討するにあたり、自由記述の分析が有効な手段の一つであることを示している。しかしながら自由記述のデータは、他の測定尺度による定量的なデータと関連させて分析を行うことも可能である。例えば吉村（2015, 2016）は「幸せの経験」と「幸せの定義」に関する自由記述データをテキストマイニングにより分析を行った。そして自由記述の分析から得られた定性的なデータと、友人関係、恋愛イメージ、キャリア意識などとの測定尺度から得られた定量的データを関連させた分析を行い、大学生の幸福感に関する興味深い知見を得ている。したがって大学生の満足度を検討する場合でも、自由記述のデータをテキストマイニングによって分析し、他の尺度と関連させて分析を行うことにより、より興味深く重要な知見が得られる可能性がある。

そこで本研究では、女子大学生を対象として大学への満足および不満足に関する自由記述のデータを収集し、学生満足度に関する要因の検討を行う。そして自由記述の分析から得られた要因が、学業成績や人生満足度にどのような影響を与えているのかについて検討する。さらに不安意識、大学生生活満足度、キャリア意識、幸福感などの測定尺度とも関連させて分析を行いたい。具体的にはまずテキストマイニングを用いてカテゴリを作成し、満足および不満足の構成要素について検討を行う。次にそのカテゴリに関する記述が自由記述の中にみられるかどうかを確認する。その上で特定のカテゴリへの言及によって学業成績や人生満足度に差はみられるのかについて検討を行う。また不安意識、大学生生活満足度、キャリア意識、幸福感などの認知に、言及の有無がどのように関わっているのかについて検討を行いたい。なおテキストマイニングは、文章を自然言語処理してカテゴリ化する部分と、カテゴリ化したデータを統計的に分析する部分に分けることができる。本研究では前者の部分 IBM SPSS Text Analytics for Surveys 4.0によって行い、後者の部分を IBM SPSS Statistics 22によって行う。

方 法

調査対象者 2016年9月に在籍していた心理学専攻の全学生253名（1回生59名，2回生70名，3回生60名，4回生64名）。質問紙への有効回答者総数は210名（回答率83%）。

調査時期 2016年9月16日～2016年10月15日

調査方法 集合調査法による質問紙調査。授業時間を使用して質問紙を配布し，回答を依頼した。研究倫理を配慮して，質問紙の冒頭で守秘義務の順守について記載し，さらに口頭で調査への参加は任意であること，および回答したくない項目は記入しなくてもよいことを伝えた。

調査項目の概要 本調査は大きく分けて，学籍番号，大学の良いところ，満足できないところ，大学へ望むこと，友人関係，学生生活への不安，大学生活の満足度，就職未決定，大学生活自己効力感，幸福感尺度，人生の満足度，大学入試，進路目標，関心のある資格などの質問項目から構成されている。

調査項目と使用尺度 本研究では以下の質問項目と尺度を使用した。また成績との関連を検討するために，2016年前期までの累積GPA（Grade Point Average）を使用した。

①学籍番号 学年（回生）ごとの特徴，および学業成績との関連を分析するために学籍番号を尋ねた。

②大学への評価（満足）大学のどのような面に満足しているかを検討するために「この大学に入ってよかったと思うことは何ですか，またこの大学の良いところは何ですか」という質問項目を設定し，自由記述で回答を求めた。

③大学への評価（不満足）大学のどのような面に不満を感じているかを検討するために「この大学に望むことは何ですか，またこの大学で満足できないところは何ですか」という質問項目を設定し，自由記述で回答を求めた。

④学生生活への不安 友人関係，授業，将来の進路などについての不安を尋ねた。“まったくあてはまらない(1)”から“非常にあてはまる(5)”までの5点尺度で回答を求めた。

⑤大学生生活の満足度 友人との関係，授業や教育内容，大学生生活全体などの項目について満足度を尋ねた。“まったく満足していない(1)”から“とても満足している(5)”までの5点尺度で回答を求めた。

⑥職業未決定 下山（1986）が作成した職業未決定尺度を用いた。未熟，混乱，猶予，模索，安直の5因子からなっている。ただし項目数については因子負荷量の大きさを参考にし，各因子から3項目を選択し，計15項目を採用した。この15項目について，“まったくあてはまらない(1)”から“よくあてはまる(5)”までの5点尺度で回答を求めた。

⑦ハッピネス尺度 吉森・植田・有倉（1992）が作成したハッピネス尺度を使用した。この尺度は生活充実感，将来に対する積極的展望。ストレスバッファ（人間関係），自己肯定感の4つの下位尺度からなっており，それぞれ3項目，計12項目で構成されている。各項目について“そう思わない(1)”から“そう思う(4)”までの4点尺度で回答を求めた。

⑧人生の満足度 Diener, Emmons, Larsen, & Griffin（1985）の人生満足尺度を用いた。この尺度は5項目からなっている。この5項目について，“まったくあてはまらない(1)”から“非常によくあてはまる(7)”までの7点尺度で回答を求めた。

結果と考察

頻出語（満足） 「この大学に入ってよかったと思うことは何ですか，またこの大学の良いところは何ですか」という質問に対して得られた自由記述式回答文を形態素解析し，よく用いられている語（動詞，名詞，形容詞，形容動詞）を抽出した。分析にはIBM SPSS Text Analytics for Surveys 4.0を用いた。なおIBM SPSS Text Analytics for Surveys 4.0では形態素解析にあたり「キーワード」の抽出を行うが，キーワードには単語だけでなく複合語も含まれており，「語彙」という概念に近い。表1は動詞，名詞，形容詞，形容動詞ごとに頻出語の一部を

表1 頻出語 (満足)

動詞	頻度	名詞	頻度	形容詞	頻度	形容動詞	頻度
いる	59	ところ	29	多い	41	たくさんだ	10
ある	39	人	25	良い	27	真面目だ	9
できる	36	授業	21	近い	15	様々だ	6
学ぶ	24	雰囲気	20	楽しい	10	まじめだ	4
する	17	友達	20	やすい	10	楽だ	4
なる	15	先生	19	ない	10	いろいろだ	3
落ち着く	13	心理学	18	少ない	7	自由だ	3
受ける	11	自分	18	よい	4	気軽だ	2
思う	11	少人数	15	いい	4	非常だ	2
過ごす	8	女子	14	高い	3	きれいだ	2
合う	8	学生	14	やさしい	3	同じ	2
感じる	7	友人	13	面白い	2	積極的	2
出会う	7	充実する	12	広い	2	ラク	1
整う	6	生徒	12	新しい	2	丁寧だ	1
つく	6	勉強	9	幅広い	2	全体的	1
入る	5	まじめ	8	強い	2	色々だ	1
通う	5	立地	8	優しい	2	協力的	1
知る	4	分野	8	授業ではない	1	いろいろ	1
わかる	4	図書館	8	遅い	1	専門的	1
とれる	4	きれい	8	長い	1	地味	1
持つ	3	勉強する	8	手厚い	1	円滑だ	1
もつ	3	設備	7	規則正しい	1	困難だ	1
きる	3	校風	7	白い	1	大切だ	1
恵む	3	資格	7	深い	1	気軽	1
いう	3	ため	7	詳しい	1	健康だ	1
総語彙数 (164)		総語彙数 (193)		総語彙数 (114)		総語彙数 (62)	

注) 複合語を含む

示したものである。各語の頻度は全調査対象者210名中何人がその語を使用したかを示している。

動詞として抽出された語彙数は164であった。頻度が高い「いる」「ある」はどのような文脈でも出現しやすい語である。満足という文脈から興味深いのは「学ぶ」「受ける」など授業と関連する語の頻度が高い点であろう。「できる」「知る」「わかる」なども知識の習得と関連すると思われる。また「落ち着く」「過ごす」などの語も出現頻度が高いが、これらは大学の雰囲気を表していると考えられる。さらに「出会う」という語は、友人や先生など人との出会いが満足度に影響を与えていることを示唆している。

名詞として抽出された語彙数は193と最も多くなっている。「ところ」の出現頻度が高いのは、質問文で「良いところは何ですか」と尋ねているからだと思われる。満足という文脈から興味深いのは、「人」「友達」「友人」など友人との出会いを表す語の頻度が高い点であろう。また「授業」「心理学」「勉強」「分野」など授業内容に関する語も出現頻度が高い。さらに「雰囲気」「真面目」「校風」といった語が示す大学の校風

も、満足度に影響を与えているようである。

形容詞の総語彙数は114と動詞や名詞に比べてやや少なくなっている。最も出現頻度が高いのは「多い」であるが、この語は「友人」「先生」「授業」などが多いという文脈で使用されている。また「まじめな人」が多いという文脈での使用も多くみられ興味深い。「良い」も頻度が高いが良い「友人」という文脈や、「環境」や「雰囲気」が良いという文脈で多く使用されている。「近い」は教員と学生の距離が近いという文脈や、京都の中心地や駅に近いという文脈で使用されている。

形容動詞の総語彙数は62と他の品詞に比べ少なくなっている。「たくさんだ」はいい「人」や「友達」がたくさんいるという文脈で使用されている。また「真面目だ」は「雰囲気」「校風」「学生」などととも使用されることが多い。

頻出語 (不満足) 「この大学に望むことは何ですか、またこの大学で満足できないところは何ですか」という質問に対して得られた自由記述式回答文を形態素解析し、よく用いられている語(動詞、名詞、形容詞、形容動詞)を抽出

表2 頻出語 (不満足)

動詞	頻度	名詞	頻度	形容詞	頻度	形容動詞	頻度
する	31	食堂	18	少ない	23	無料だ	4
いる	25	授業	17	高い	15	きれいだ	3
ある	24	ところ	17	ない	15	全体的	2
思う	18	校舎	17	多い	10	不満だ	2
増やす	13	Wi-Fi	11	遠い	9	重要だ	2
なる	12	図書館	10	悪い	7	同じ	2
つながる	9	あまり	10	よい	6	自由だ	2
学ぶ	8	エレベーター	9	遅い	6	積極的	2
つくる	7	成績	9	古い	6	残念だ	2
休む	5	心理学	8	ほしい	5	不快だ	1
見る	5	バス	8	いい	5	豊富だ	1
かかる	4	サーバー	8	良い	5	手軽だ	1
とる	4	人	8	欲しい	5	勝手だ	1
できる	4	プリンセスラインバス	7	厳しい	4	便利だ	1
とれる	4	設備	7	しんどい	4	無料	1
きく	3	ネット	7	早い	3	保守的	1
感じる	3	自分	7	新しい	3	おしゃれだ	1
混む	3	学生食堂	7	小さい	3	健康だ	1
かぶる	3	環境	7	弱い	3	大荒れだ	1
整う	3	プリバ	6	面白い	2	いろいろだ	1
増える	3	祝日	6	重い	2	柔軟だ	1
使う	3	寮	6	きつい	2	個人的	1
分かる	2	学費	6	強い	2	耐震的	1
対する	2	方	5	安い	2	危険だ	1
整える	2	売店	5	激しい	2	きれい	1
総語彙数 (144)		総語彙数 (181)		総語彙数 (110)		総語彙数 (37)	

注) 複合語を含む

した(表2)。

動詞として抽出された語彙数は144であり満足の場合よりやや少なくなっている。最も出現頻度が高い「する」は「～してほしい」という要望の形式で使用されることが多い。「増やす」は「食堂」や「売店」を増やしてほしいという要望や、通学バスの便数を増やしてほしいという文脈で多く使用されている。「つながる」はWi-Fiなどのインターネット環境の充実を求めるといった文脈で使用されることが多い。また「学ぶ」は授業やカリキュラムの充実を望むという文脈で使用されている。

名詞として抽出された語は181であり満足の場合よりやや少なくなっている。最も出現頻度が高いのは「食堂」であり、食堂の増設やメニューの充実が強く望まれているようである。「授業」については、カリキュラム内容の充実や、時間割の工夫などの文脈で多く使用されている。「校舎」は「設備」や「エレベーター」とともに出現することが多く、学習環境の向上が強く求められているようである。また「Wi-Fi」環境に関する不満や要望も出現頻度が高い。

形容詞として抽出された語は110であった。

もっとも頻度が高い「少ない」は「食堂」や「売店」、「エレベーター」などの設備、通学バスの便数などが少ないという文脈で使用されている。「高い」は学費や交通費が高いという文脈で使用されることが多い。また「遠い」は校舎間の距離や、食堂までの距離が遠いという文脈で使用されている。

形容動詞の総語彙数は37であり、満足の場合よりかなり少なくなっている。「無料だ」は通学に使用するバスの運賃を無料にしてほしいという文脈で使用されている。また「きれいだ」はトイレなどの設備をきれいにしてほしいという文脈での使用が多い。

カテゴリ頻度(満足) 頻出語の分析からはそれぞれ興味深い知見が得られたが、単に自由記述のテキストデータを形態素解析し、各品詞の頻度を数えるだけでは十分といえない。テキストマイニングの手法を活用するためには、自由記述データの中の意味のある語彙に着目し、出現頻度、品詞、類義語、派生語、共起語などの情報をもとにカテゴリを作成する必要がある。そこでまず、満足していることに関する自由記

述のデータに対して形態素解析を行い、キーワード（語彙）を抽出した。つぎにこれらの語彙の中から意味的に同一の内容を表すと思われる語彙を集め、カテゴリを作成した（表3）。たとえば「授業他」というカテゴリには、「学ぶ」「授業」「心理学」「勉強する」など授業に関連するさまざまな語彙が含まれている。なお語彙としての頻度は高くてもカテゴリとしての意味がないと考えられる一般的な語彙、たとえば「いる」「ある」などは除外した。各カテゴリの頻度は全調査対象者210名中何人がそのカテゴリに言及しているかを示している。全部で13のカテゴリが作成された。

もっとも頻度が高かったのは「授業他」カテゴリであった。約4割の学生がこのカテゴリに言及している。多くの学生が授業内容やカリキュラムの充実に言及していることは、学生の満足度にとって授業の充実が重要な要素であることを示している。また「心理学他」カテゴリや「少人数他」カテゴリも、授業内容や授業方法に関するカテゴリであると考えられる。自分が興味を持っている専門分野の授業が充実していることや、少人数教育が多く丁寧な指導が受けられることが満足度に結びついているようである。「女子大他」カテゴリも頻度が高かった。男子学生の目を意識せずに済むことで、楽な気持ちで自然にふるまえる点が評価されているようである。共学にはない女性のためのカリキュラムや就職支援が充実していることも評価が高い。また男性に頼らず女性だけで行わなければならないことも多くなるので、たいいていのこと

は女性でもできるという自信や主体性が身につくことも長所として評価されている。「キャリア他」カテゴリに関する言及も多くみられたが、これは学生のキャリア意識の高さを反映していると考えられる。さまざまな資格や免許が取得できることは、満足度を高める上で重要な要素であると考えられる。授業はもとより、資格や検定に向けた講座の充実や、就職活動におけるサポートも含めたキャリアサポート全体が学生の満足度に強く結びついているようである。「友人他」カテゴリや「先生他」カテゴリは大学での人間関係に関するカテゴリである。吉村（2015, 2018）は女子大学生を対象とした調査で友人関係が大学生活満足度に大きな影響を与えていることを明らかにしている。本調査の結果も、日本各地から集まるさまざまな個性を持った友人と出会えることや、視野を広め成長させてくれる友人との出会い、気楽に何でも話せる友人の存在などが満足度に大きな影響を与えていることを示唆している。「先生他」カテゴリについては、質問がしやすく、対応が丁寧であるという言及が多い。少人数教育が多いということもあり、学生と教員の距離の近さが満足度に強く結びついているようである。「真面目他」カテゴリは非常に特徴的で興味深いカテゴリであるといえよう。真面目という語は、校風や学生が「真面目」であるという文脈で言及されていることが多い。また「雰囲気他」カテゴリとの結びつきも見られ、真面目で落ち着いた雰囲気が高く評価されているようである。「真面目」という語は本学の雰囲気や校風を示すキーワードの一つとも言えるかもしれない。「環境他」カテゴリには校舎や図書館などのキャンパスの環境やトイレなどの設備に関する語彙が含まれている。キャンパス整備計画が進行中ということもあり、整備を終えた施設や設備については満足度が高いようである。「立地他」カテゴリには「京都」「歴史」「観光地」などの語彙が含まれており、京都の中心地や駅に近いという立地条件が評価されているようである。「ブランド他」カテゴリでは、「京女」という名前の認知度が高い点を評価する記述がみられた。

表3 カテゴリ頻度（満足）

カテゴリ	頻度
授業他	85
女子大他	50
キャリア他	40
友人他	38
真面目他	33
環境他	32
心理学他	31
先生他	29
雰囲気他	28
少人数他	25
立地他	23
特になし他	13
ブランド他	6

カテゴリ頻度（不満足） 満足していないことに関して、形態素解析によって抽出された語彙を意味的な内容ごとに分類し、10のカテゴリを作成した（表4）。ただし頻度が高くても、カテゴリとしての意味を持たないと考えられる「いる」「ある」「ところ」などの語彙は除外した。

もっとも頻度が高いのは「設備他」カテゴリであった。校舎間の距離が遠いことや、階段や坂が多く移動に不便なことへの言及が多い。古い寮や旧校舎の設備に関する不満も多く述べられている。この点に関しては現在キャンパス整備計画が進行中であり、次第に改善されていくと思われる。図書館に関しては利用時間の延長を求める声が多い。自習室やトイレ、エレベーターの増設についても要望が強いようである。2番目に頻度が高いのは「ネット環境他」カテゴリであった。キャンパス内においていつでもどこでもインターネット接続ができるようにしてほしいという要望が強い。また成績発表時や単位登録時にサーバーがダウンすることがあったり、インターネットがつながりにくくなったりしたことに対しても不満は強いようである。今後大学から学生への情報伝達はインターネットを通じて行われることがますます多くなると思われる。インターネット環境の充実が学生の満足度を高めるための重要な要素であると考えられる。「授業・カリキュラム他」カテゴリについては、カリキュラムの充実を求める言及と時間割の重なる改善に関する言及が多くみられた。満足している点に関して「授業他」カテゴリは最も多く言及されていたが、ここでも授業への言及が多いということは、授業やカリ

キュラムの更なる充実が求められているということを示している。「教務関係情報他」カテゴリでは、成績開示やシラバス、単位登録と言った教務関連の情報の伝達に関する言及が多くみられた。また台風や大雨などの影響による休講情報についての言及も多くみられた。教務関係情報の伝達は、キャンパス内の掲示板からインターネット上の学内ポータルサイトに移行しつつあるが、物理的なインターネット環境の充実とともに、情報の内容や提示方法についても工夫を重ねていくことが重要であると思われる。「特になし他」カテゴリには、「特になし」と回答した学生や無回答の学生が含まれている。満足した点に関しては「特になし他」カテゴリの頻度が13であったのに対し、不満足な点では頻度が29と多くなっている。この結果は大学への満足度が相対的に高いことを示唆しているといえよう。「食堂他」カテゴリや「売店他」カテゴリへの言及も頻度が高い。キャンパスの中に食堂や売店が少なく、混んでいることへの不満が多いようである。また料理のメニューや売店の品揃えの充実を求める言及も多い。コンビニエンスストアや大学生協のような便利で安価な施設を望んでいるようである。「事務職他」カテゴリについては、学生と深いかかわりを持つ教務課への言及が最も多かった。また学生生活センターやキャリアセンターの対応やサポートに関する言及も見られた。これらの結果は、学生への丁寧な対応が満足度を高める重要な要素であることを示している。「大学へのバス他」カテゴリには、京都駅や四条河原町駅と大学を結ぶ通学バスへの言及が多くみられた。このバス路線を運営しているのは民間企業であるが、大学が運営していると誤解している学生も多いようである。そのためか本数の増加や運賃の無料化を望む言及が多かった。「国際交流他」カテゴリには留学制度の充実と外国人留学生の増加を望む言及が多くみられた。キャンパス内で異文化や外国語に触れる機会を多くしたり、語学講座を充実させることが望まれているようである。

表4 カテゴリ頻度（不満足）

カテゴリ	頻度
設備他	64
ネット環境他	45
授業・カリキュラム他	41
教務関係情報他	35
特になし他	29
食堂他	29
大学へのバス他	28
事務職他	22
売店他	20
国際交流他	11

カテゴリ間の関連 満足している点に関しても不満足な点に関しても多くのカテゴリが得られたが、それぞれのカテゴリ間にはどのような関連がみられるのであろうか。この問題を検討するために、まずそれぞれのカテゴリについて、調査対象者ごとにそのカテゴリへの言及があれば1、なければ0の数値を割り当てた。この2値データをもとに、カテゴリ間の関連を分析するために χ^2 乗検定を行った。また Jaccard 係数を参考にして、カテゴリ間の共起率を以下の計算式によって求めた。

$$\text{カテゴリの共起率} = (A \cap B) / (A \cup B) \times 100$$

なお式中のAはカテゴリAに言及した学生の集合、BはカテゴリBに言及した学生の集合を表している。また $A \cap B$ はカテゴリAとBの両方に言及した学生の集合、 $A \cup B$ はカテゴリAまたはBの少なくとも一方に言及した学生の集合を表している。

満足に関するカテゴリ間の関連を検討したところ、「授業他」カテゴリと「心理学他」カテゴリに有意な関連がみられた ($\chi^2(1) = 47.84, p = .000$)。また「授業他」カテゴリと「キャリア他」カテゴリの間にも有意な関連がみられた ($\chi^2(1) = 9.95, p = .002$)。さらに「心理学他」カテゴリと「キャリア他」カテゴリ間にも有意な関連がみられた ($\chi^2(1) = 12.36, p = .000$)。共起率は順に、34.9%、25.0%、22.4%であった。したがって「授業」に満足している学生は専門科目である「心理学」関連の授業や、「キャリア」関係の講座やサポートにも満足している場合が多いといえよう。「授業他」カテゴリについては「少数他」カテゴリとの間にも有意な関連がみられた ($\chi^2(1) = 6.52, p = .011$)。共起率は17.0%であった。授業に対する満足度には少数教育が少なからず貢献していると思われる。

不満足に関するカテゴリ間についても関連性の検討を行った。「設備他」カテゴリと「売店他」カテゴリに有意な関連がみられた ($\chi^2(1) = 9.09, p = .003$)。また「売店他」カテゴリと「食堂他」カテゴリの間にも有意な関連がみられた ($\chi^2(1) = 31.519, p = .000$)。さらに「食堂他」カテゴリと「設備他」カテゴリ間にも有意な関

連の傾向がみられた ($\chi^2(1) = 3.27, p = .071$)。共起率は順に、16.67%、29.0%、16.25%であった。したがって「食堂」や「売店」に満足していない学生は、校舎や図書館などの他の「設備」に関して不満を抱いているようである。「ネット環境他」カテゴリについては「教務関係情報他」カテゴリとの間に有意な関連がみられた ($\chi^2(1) = 22.45, p = .000$)。共起率は29.0%であった。教務関係の情報の多くがインターネット上で伝達されるようになっている。そのためインターネット環境のトラブルや不備が、教務関係情報に対する満足度にも大きな影響を与えていると考えられる。

満足カテゴリへの言及の有無と人生満足度との関連 満足している点に関しては13のカテゴリがみられた。自由記述の中であるカテゴリについて述べているということは、そのカテゴリが大学への満足度と強く結びついていることを示している。また大学への満足度は人生の満足度に大きな影響を与えている可能性もある。もしそうであればそのカテゴリに言及している学生は言及していない学生より、人生の満足度が高い可能性がある。そこでこの可能性を検討するために、各カテゴリについて言及の有無を独立変数とし、人生満足度を従属変数とするt検定を行った。有意差の傾向がみられたのは「授業他」カテゴリ ($t(208) = 1.91, p = .057$)、「雰囲気他」カテゴリ ($t(208) = 1.90, p = .059$) および「ブランド他」カテゴリ ($t(208) = 1.87, p = .063$) の3つであった(図1)。「授業他」カテゴリに言及している学生 ($M = 4.13, SD = 1.12, n = 85$) は言及していない学生 ($M = 3.81, SD = 1.23, n = 125$) より人生満足度が

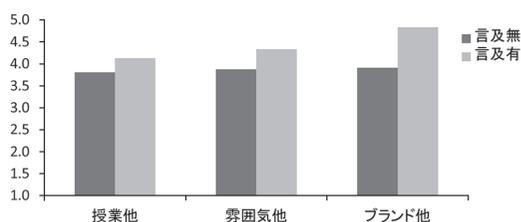


図1 満足カテゴリ別の人生満足度の平均値

高い傾向にあった。また「雰囲気他」カテゴリに言及している学生 ($M=4.34$, $SD=1.22$, $n=28$) は言及していない学生 ($M=3.88$, $SD=1.18$, $n=182$) に比べて人生満足度が高い傾向にあった。さらに「ブランド他」カテゴリに言及している学生 ($M=4.83$, $SD=1.22$, $n=6$) は言及していない学生 ($M=3.91$, $SD=1.19$, $n=204$) に比べて人生満足度が高い傾向にあった。したがって自由記述の中で大学の授業のことや大学の雰囲気、および大学のブランド性について言及した学生は、人生の満足度も高い傾向にあるといえる。ただブランド性については言及した学生は少数であるので解釈に注意が必要である。

不満足カテゴリへの言及の有無と人生満足度との関連 満足していないことに関しては10のカテゴリがみられた。不満足自由記述の中であるカテゴリに言及しているということは、大学の満足度においてそのカテゴリを強く意識していることを示している。また大学への不満は人生への満足度にも影響を与えている可能性がある。そこであるカテゴリに言及することが、人生の満足度にどのような影響を与えているかを検討するために、各カテゴリについて言及の有無を独立変数とし、人生満足度を従属変数とする t 検定を行った。「売店他」カテゴリ ($t(208)=2.43$, $p=.016$) には有意差がみられた。また「教務関係情報他」カテゴリ ($t(208)=1.85$, $p=.066$)、および「事務職他」カテゴリ ($t(208)=1.87$, $p=.063$) には有意差の傾向がみられた(図2)。「売店他」カテゴリに言及している学生 ($M=4.55$, $SD=1.31$, $n=20$) は言及していない学生 ($M=3.87$, $SD=1.17$, $n=190$)

より人生満足度が高かった。これに対して「教務関係情報他」カテゴリに言及している学生 ($M=3.60$, $SD=1.08$, $n=35$) は言及していない学生 ($M=4.01$, $SD=1.21$, $n=175$) に比べて人生満足度が低い傾向にあった。さらに「事務職他」カテゴリに言及している学生 ($M=3.49$, $SD=1.10$, $n=22$) は言及していない学生 ($M=3.99$, $SD=1.20$, $n=188$) に比べて人生満足度が低い傾向にあった。したがって教務関係情報の伝達や事務職員の対応に満足していない学生は、人生の満足度も低い傾向にあるといえる。「売店他」カテゴリの結果は興味深い。この結果は人生の満足度が高い学生ほど売店の充実を強く望み、コンビニエンスストアや大学生協並みの機能を求めていることを示唆している。

満足カテゴリへの言及の有無と学業成績 (GPA) との関連 大学に対する満足度と学業成績の間にはどのような関連がみられるのであろうか。また満足に関する13のカテゴリの中でどのようなカテゴリが学業成績と関連しているのであろうか。この問題を検討するために、各カテゴリについて言及の有無を独立変数とし、累積GPAを従属変数とする t 検定を行った。有意差がみられたのは「授業他」カテゴリ ($t(208)=2.10$, $p=.037$)、「環境他」カテゴリ ($t(208)=2.19$, $p=.030$) および「先生他」カテゴリ ($t(208)=3.05$, $p=.003$) の3つであった(図3)。「授業他」カテゴリに言及している学生 ($M=2.96$, $SD=.51$, $n=85$) は言及していない学生 ($M=2.79$, $SD=.61$, $n=125$) より累積GPAが有意に高かった。また「環境他」カテゴリに言及している学生 ($M=3.07$, $SD=.54$, $n=32$) は

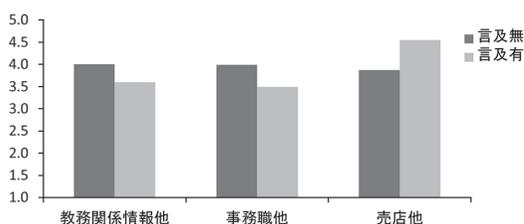


図2 不満足カテゴリ別の人生満足度の平均値

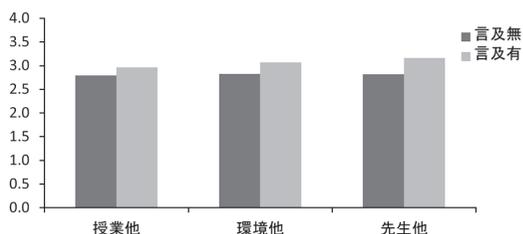


図3 満足カテゴリ別のGPAの平均値

言及していない学生 ($M=2.83$, $SD=.58$, $n=178$) に比べて累積 GPA が有意に高くなっていた。さらに「先生他」カテゴリに言及している学生 ($M=3.16$, $SD=.37$, $n=29$) は言及していない学生 ($M=2.81$, $SD=.59$, $n=181$) に比べて累積 GPA が有意に高かった。したがって授業の内容や先生の対応に満足している学生は、そうでない学生に比べて学業成績が高いといえる。また図書館や校舎などの学習環境に満足している学生も、そうでない学生に比べて学業成績が高い。これらの結果は、授業内容や教員の対応、学習環境などに満足できるかどうか、学業成績に大きな影響を与えていることを示している。

不満足カテゴリへの言及の有無と学業成績 (GPA) との関連 大学に対して満足できないことは学業成績にどのような影響を与えているのであろうか。また不満足に関する10のカテゴリの中でどのようなカテゴリが学業成績と関連しているのであろうか。この問題を検討するために、各カテゴリについて言及の有無を独立変数とし、累積 GPA を従属変数とする t 検定を行った。有意差がみられたのは「ネット環境他」カテゴリ ($t(208)=3.73$, $p=.000$) および「国際交流他」カテゴリ ($t(208)=2.08$, $p=.039$) の2つであった。また「設備他」カテゴリ ($t(208)=1.72$, $p=.087$) には有意差の傾向がみられた (図4)。「ネット環境他」カテゴリに言及している学生 ($M=3.14$, $SD=.50$, $n=45$) は言及していない学生 ($M=2.79$, $SD=.58$, $n=165$) より累積 GPA が有意に高かった。また「国際交流他」カテゴリに言及している学生 ($M=3.21$, $SD=.33$, $n=11$) は言及していない学

生 ($M=2.84$, $SD=.58$, $n=199$) に比べて累積 GPA が有意に高くなっていた。さらに「設備他」カテゴリに言及している学生 ($M=2.97$, $SD=.59$, $n=64$) は言及していない学生 ($M=2.82$, $SD=.57$, $n=146$) に比べて累積 GPA が高い傾向がみられた。したがってパソコンや Wi-Fi などのインターネット環境に満足しておらず、その充実を求める学生の方が学業成績は高いといえる。また大学の各種設備に満足しておらず、より一層の充実を求める学生も学業成績が高い傾向にある。さらに国際交流がもっと盛んになってほしいと願う学生の方が学業成績は高かった。これらの結果は満足していない学生の方が累積 GPA が高いという点で興味深い。累積 GPA が高い学生は、学ぶことに意欲的であると考えられる。そしてより充実した環境を求めるがゆえに、不十分と感じることを自由記述で言及したのではないだろうか。

満足カテゴリへの言及と不安意識、大学生生活満足度、キャリア意識、幸福感との関連 満足カテゴリへの言及は、人生満足度や学業成績だけでなくさまざまな要因とも関連している可能性がある。そこで各カテゴリについて言及の有無を独立変数とし、各要因の下位尺度を従属変数とする t 検定を行った。不安意識については、友人関係についての不安、授業についての不安、および将来の進路についての不安の3項目を従属変数として用いた。大学生生活満足度については、友人との関係、大学での授業や教育内容、大学生生活全体の3項目を従属変数として用いた。キャリア意識については下山 (1986) の職業未決定尺度を使用した。吉村 (2018) の結果を参考にして、未熟・混乱、安直、模索、猶予の4因子の下位尺度得点を従属変数として用いた。幸福感については吉森・植田・有倉 (1992) のハピネス尺度を使用した。生活充実感、将来に対する積極的展望、ストレスバッファ、自己肯定感の4つの下位尺度得点を従属変数として使用した。

「授業他」カテゴリについては、3項目に有意差が、また1項目に有意差の傾向がみられた

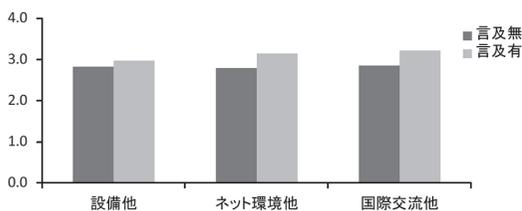


図4 不満足カテゴリ別のGPAの平均値

(表5)。「授業他」カテゴリに言及している学生は言及していない学生に比べて、大学での授業や教育内容により満足している。また将来に対して積極的な展望を持ち、毎日の生活もより充実しているようである。さらに友人関係の不安も低い傾向がみられた。「先生他」カテゴリに関しては、2項目に有意差がみられた(表6)。「先生他」カテゴリに言及している学生は言及していない学生よりも、大学での授業や教育内容により満足している。また職業決定を猶予して当面のところは職業について考えたくないという気持ちも、言及していない学生よりは低いようである。「友人他」カテゴリについては、5項目に有意差が、また2項目に有意差の傾向がみられた(表7)。「友人他」カテゴリに言及している学生は言及していない学生よりも、友人関係に不安がなく友人との関係に満足しているようである。また友人関係だけでなく、大学生活全体に対しても満足度が高くなっている。幸福感についても「友人他」カテゴリに言及している学生の方が高くなっている。「友人他」カテゴリに言及している学生は、自己肯定感が

より高く、ストレスを軽減するための人間関係も豊かなようである。さらに将来に対して積極的な展望を持ち、毎日の生活もより充実している傾向がみられた。以上の結果から授業の内容や教員の対応に満足している学生は、大学での授業や教育内容のみならず、友人関係やキャリア意識、そして幸福感においても満足度が高くなる可能性が示されたといえよう。また友人関係における満足度は、大学生活全体の満足度とともに幸福感全体にも強い影響を与えていることが示唆されたといえよう。

不満足カテゴリへの言及と不安意識、大学生生活満足度、キャリア意識、幸福感との関連 不満足カテゴリへの言及も満足カテゴリの場合と同様に、人生満足度や学業成績だけでなくさまざまな要因とも関連している可能性がある。そこで各カテゴリについて言及の有無を独立変数とし、各要因の下位尺度を従属変数とする t 検定を行った。

「授業・カリキュラム他」カテゴリについては、3項目に有意差がみられた(表8)。「授

表5 授業他カテゴリへの言及の有無による各要因の平均値の差

	授業他カテゴリ				p
	言及無		言及有		
	M	SD	M	SD	
友人関係に不安がある	2.620	1.098	2.350	1.099	.090
大学での授業や教育内容	3.540	.808	3.910	.766	.001
将来展望	2.531	.860	2.792	.778	.026
生活充実感	2.525	.776	2.769	.772	.026

表6 先生他カテゴリへの言及の有無による各要因の平均値の差

	先生他カテゴリ				p
	言及無		言及有		
	M	SD	M	SD	
大学での授業や教育内容	3.650	.827	3.930	.651	.046
猶予	2.171	.821	1.931	.491	.033

表7 友人他カテゴリへの言及の有無による各要因の平均値の差

	友人他カテゴリ				p
	言及無		言及有		
	M	SD	M	SD	
友人関係に不安がある	2.590	1.148	2.130	.777	.004
友人との関係	3.990	.858	4.470	.603	.001
大学生活全体	3.690	.847	4.030	.788	.027
将来展望	2.587	.846	2.860	.762	.069
生活充実感	2.576	.751	2.842	.886	.057
自己肯定感	2.525	.695	2.980	.661	.000
ストレスバッファ	3.384	.598	3.671	.549	.007

業・カリキュラム他」カテゴリに言及している学生は言及していない学生に比べて、大学での授業や教育内容に対する満足度が低くなっている。しかしながらキャリア意識の「未熟・混乱」や「猶予」の値は低く、キャリア意識が成熟しているといえる。つまり授業やカリキュラムに対する不満についてしっかり言及する学生の方が、職業決定に不安や焦りを感じる事が少なく、職業決定を先延ばしにしたいという気持ちもあまりないようである。「食堂他」カテゴリについては、3項目に有意差の傾向がみられた(表9)。「食堂他」カテゴリに言及している学生は言及していない学生よりも、職業決定を猶予して当面のところは職業について考えたくないという気持ちは低いようである。幸福感については「食堂他」カテゴリに言及している学生の方が高くなっている。「食堂他」カテゴリに

言及している学生は、生活充実感がより高く、ストレスを軽減するための人間関係も豊かなようである。「大学へのバス他」カテゴリについては、3項目に有意差が、また2項目に有意差の傾向がみられた(表10)。「大学へのバス他」カテゴリに言及している学生は言及していない学生に比べて、友人関係に不安を感じておらず、友人との関係に満足しているようである。また将来の進路に対する不安も相対的に低く、就職できるならどこでもよいといった安直な気持ちも持っていないようである。さらに「大学へのバス他」カテゴリに言及している学生は、自分に自信を持ち、自己を肯定的に捉えているようである。「売店他」カテゴリに関しては、3項目に有意差が、また1項目に有意差の傾向がみられた(表11)。「売店他」カテゴリに言及している学生は、将来の進路に対する不安が相対的

表8 授業・カリキュラム他カテゴリへの言及の有無による各要因の平均値の差

	授業・カリキュラム他カテゴリ				p
	言及無		言及有		
	M	SD	M	SD	
大学での授業や教育内容	3.770	.724	3.370	1.043	.023
未熟・混乱	3.517	.915	3.167	1.027	.033
猶予	2.195	.801	1.902	.692	.032

表9 食堂他カテゴリへの言及の有無による各要因の平均値の差

	食堂他カテゴリ				p
	言及無		言及有		
	M	SD	M	SD	
猶予	2.179	.780	1.885	.803	.062
生活充実感	2.584	.779	2.874	.769	.064
ストレスバッファ	3.406	.612	3.621	.475	.073

表10 大学へのバス他カテゴリへの言及の有無による各要因の平均値の差

	大学へのバス他カテゴリ				p
	言及無		言及有		
	M	SD	M	SD	
友人関係に不安がある	2.570	1.114	2.110	.956	.025
将来の進路に不安がある	4.230	.822	3.890	1.031	.052
友人との関係	4.040	.863	4.320	.612	.096
安直	2.439	1.051	1.893	.737	.001
自己肯定感	2.566	.711	2.875	.647	.032

表11 売店他カテゴリへの言及の有無による各要因の平均値の差

	売店他カテゴリ				p
	言及無		言及有		
	M	SD	M	SD	
将来の進路に不安がある	4.230	.833	3.800	1.005	.034
未熟・混乱	3.495	.922	3.008	1.081	.028
生活充実感	2.586	.774	2.983	.783	.030
自己肯定感	2.580	.713	2.863	.631	.091

に低い。また言及していない学生に較べて、職業選択に関して不安や焦りを感じ情緒的に混乱するということが少ないようである。さらに「売店他」カテゴリに言及している学生は、自分を肯定的に評価しており、充実した生活を送っているようである。

以上の結果は、大学への不満が大学生生活満足度の低下や幸福感の低下に直接つながるわけではないということを示唆しており、非常に興味深い。むしろ大学への不満や要望をはっきり表明している学生の方が、キャリア意識が成熟しており、幸福感も高い傾向にある。恐らく、意欲的な大学生活を送っている学生は、キャリア意識も成熟し、幸福感も高いと考えられる。そして充実した大学生活を送りたいと願っている学生は、大学への期待も大きいのではないだろうか。それ故大学に対する不満や要望をはっきりと認識しており、それが自由記述の中に現われているのではないだろうか。

まとめと今後の課題

本研究の目的は、大学への満足および不満足について言及された自由記述のデータを、テキストマイニングの手法によって分析し、人生満足度および学業成績との関連を検討することであった。さらに大学への満足、不満足への言及が、不安意識、大学生生活満足度、キャリア意識、幸福感などにどのような影響を与えるかについても探索的に検討を行った。

分析には大学に対する満足と不満足に関する質問で得られた自由記述式回答文のテキストデータを用いた。最初にこれらのデータに対して頻出語の分析を行った。

大学に対する満足では「学ぶ」「受ける」などの授業と関連する動詞や「できる」「知る」「わかる」などの知識の習得に関する動詞が多くみられた。また「落ち着く」「過ごす」など大学の雰囲気を表す動詞や「出会う」という人との出会いを示す動詞も多かった。名詞では「人」「友達」「友人」など友人との出会いを表す語や、「授業」「心理学」「勉強」「分野」など授業内容

に関する語が多くみられた。また「雰囲気」「真面目」「校風」といった大学の校風を表す名詞も多かった。形容詞では「多い」の出現頻度が高く、「友人」「先生」「授業」などが多いという文脈で使用されていた。「良い」も多くみられたが「友人」「環境」「雰囲気」などが良いという文脈で使用されていた。「近い」は教員と学生の距離が近いという文脈や、街の中心地や駅に近いという文脈で使用されていた。形容動詞では「たくさんだ」がいい人や友達がたくさんいるという文脈で多く使用されていた。また「真面目だ」は「雰囲気」「校風」「学生」などが真面目であるという文脈で多く使用されていた。

大学に対する不満足では「増やす」や「つながる」「学ぶ」などの動詞が多くみられた。また名詞では「食堂」「バス」「授業」「Wi-Fi」などが多くみられた。「増やす」は「食堂」や売店を増やしてほしい、また「バス」の便数を増やしてほしいという文脈で多く使用されていた。「つながる」は「Wi-Fi」などのインターネット環境の充実を、また「学ぶ」は「授業」やカリキュラムの充実を望むという文脈で多く使用されていた。名詞の「校舎」は「設備」や「エレベーター」とともに出現することが多く、学習環境の充実を求めるという文脈で使用されていた。形容詞としては「少ない」の頻度が高く、食堂や売店、エレベーターなどの設備やバスの便数が少ないという文脈で使用されていた。「高い」は学費や交通費との関連で使用されることが多く、「遠い」は校舎や食堂までの距離が遠いという文脈で使用されていた。形容動詞としては、「無料だ」がバスの運賃との関連で、「きれいだ」がトイレなどの設備との関連で使用されることが多かった。

頻出語の分析から興味深い結果が得られたが、語彙レベルの分析だけでは重要な情報を見逃してしまう恐れがある。そこで同じような意味を持つ語を集めてカテゴリを作成し、カテゴリ頻度に関しても分析を行った。自由記述のデータから、大学への満足については13のカテゴリ、不満足については10のカテゴリが作成された。

大学への満足では、「授業他」カテゴリの頻度が最も高かった。また「心理学他」カテゴリや「少人数他」カテゴリも頻度が高かった。これらのカテゴリは授業内容や授業方法に関するものであり、専門分野の授業が充実していることや、少人数教育による丁寧な指導が満足度に結びついていることを示唆している。「女子大他」カテゴリも頻度が高かった。共学ではあまり見られない女性のためのカリキュラムや、女性のための就職支援が充実していることが評価されているようである。同様に「キャリア他」カテゴリの頻度も高く、資格や検定に向けた講座の充実や就職活動におけるサポート全般が、満足度に大きく影響を与えていると考えられる。大学における人間関係を表す「友人他」カテゴリや「先生他」カテゴリも頻度が高かった。信頼できる友人との出会いや、学生と教員の距離の近さが満足度に強く結びついているようである。興味深いのは「真面目他」カテゴリや「雰囲気他」カテゴリの頻度が高いことである。校風ともいえる真面目で落ち着いた雰囲気が高く評価されているようである。「環境他」カテゴリには校舎や図書館などのキャンパス環境やトイレなどの設備が含まれており、すでに整備を終えた建物や設備には満足度が高くなっている。「立地他」カテゴリでは、歴史ある京都の史跡や中心地に近く、駅にも近いという立地条件が評価されていた。

大学に対する不満では、「設備他」カテゴリの頻度が最も高かった。校舎間の距離が遠く移動に不便なことへの不満が多い。古い建物や設備に関する不満も多く、整備を終えた建物や設備に対する高評価とは対照的である。2番目に頻度が高かったのは「ネット環境他」カテゴリであった。キャンパス内では場所を問わず、いつでもインターネット接続ができるようにして欲しいという要望が多い。このカテゴリは「教務関係情報他」カテゴリとの関連も強い。成績やシラバス、休講情報などの教務関連の情報は、インターネット上で伝達されることが多くなっている。情報の伝達を円滑に行うためには、インターネット環境の充実とともに、情報

内容や提示方法についても継続的に改善していくことが重要であると思われる。「授業・カリキュラム他」カテゴリについても頻度が高かった。授業に関するカテゴリは満足している面でも多く言及されていたが、そこでは授業の内容や方法に関するものが多かった。これに対して不満足な面では、時間割の重なりやカリキュラムに関するものが多かった。「特になし他」カテゴリは満足においても不満足においても共にみられたが、不満足における頻度の方がかなり高い。この結果は大学への満足度が相対的に高いことを示しているとも考えられる。「食堂他」カテゴリや「売店他」カテゴリへの言及も多かった。キャンパスが景観地区の中にあり、付近に食事や買い物ができる施設が少ないことも影響していると思われる。キャンパスは学生が多く時間を過ごす学びの場であるとともに生活の場でもある。学生が充実した時間を過ごすためにも、食堂や売店などの施設の充実は重要な課題であるといえよう。「事務職他」カテゴリでは、学生とかかわりの深い教務課や学生生活センターへの言及が多かった。大学への満足の中で事務職員の対応に感謝する記述も見られたが、不満を抱いている学生も一定数存在しているようである。「国際交流他」カテゴリでは、外国人留学生の増加を望む声が多かった。また留学制度に関する要望も見られた。

カテゴリ間の関連からも興味深い結果が得られた。満足に関するカテゴリ間では、「授業他」カテゴリ、「心理学他」カテゴリ、および「キャリア他」カテゴリ間に有意な関連がみられ、共起率も高かった。授業に満足している学生は、専門科目である心理学はもちろんのこと、キャリア関係の講座やサポートにも満足しているようである。「授業他」カテゴリは「少人数他」カテゴリとも有意な関連を持っており、少人数教育が授業に対する満足度に大きく影響していることがうかがえる。

不満足に関するカテゴリ間では、「設備他」カテゴリ、「売店他」カテゴリ、および「食堂他」カテゴリ間の相互に有意な関連がみられた。校舎や図書館などの設備に満足していない学生は、

売店や食堂などの施設に対しても不満を抱いているようである。また「ネット環境他」カテゴリと「教務関係情報他」カテゴリとの共起率も高く、統計的にも有意な関連がみられた。教務関係の情報インターネットを通じて伝達されることが多くなるにつれ、インターネット関連のトラブルや不備が、教務情報の評価にも大きく影響を与えるようになったのではないだろうか。

自由記述の中で、あるカテゴリについて述べる学生とそうでない学生には、どのような違いがみられるであろうか。この問題を検討するために、まず人生の満足度がカテゴリへの言及の有無によりどう異なるかについて検討を行った。満足カテゴリについては、「授業他」カテゴリ、「雰囲気他」カテゴリ、および「ブランド他」カテゴリにおいて人生満足度に有意差の傾向がみられた。自由記述で大学の授業や雰囲気およびブランド性について言及した学生は、人生の満足度も高い傾向にあった。不満足カテゴリについては、「売店他」カテゴリに有意差がみられ、「教務関係情報他」カテゴリと「事務職他」カテゴリには有意差の傾向がみられた。教務関係情報の伝達や事務職員の対応に満足していない学生は、人生の満足度も低い傾向にあった。「売店他」カテゴリについては言及している学生、つまり不満をはっきり述べている学生の方が人生の満足度が高いという興味深い結果が得られた。

カテゴリへの言及と学業成績との関連に関する分析からも興味深い結果がいくつか得られた。満足カテゴリに関しては「授業他」カテゴリ、「環境他」カテゴリ、および「先生他」カテゴリにおいて有意差がみられた。自由記述の中でこれらのカテゴリに言及している学生、つまり授業の内容や先生の対応に満足している学生、および図書館や校舎などの学習環境に満足している学生は、そうでない学生よりも学業成績が高かった。不満足カテゴリについては、「ネット環境他」カテゴリと「国際交流他」カテゴリに有意差がみられ、「設備他」カテゴリに有意差の傾向がみられた。これらのカテゴリについ

ては自由記述で言及している学生、つまり満足していない学生の方がむしろ学業成績が高いという興味深い結果が得られた。学業成績が高い学生は学習意欲も高く、より充実した環境を求めていると考えられる。それゆえ不十分と感じるネット環境や設備、国際交流などについてしっかりと言及したのではないだろうか。

さらにカテゴリへの言及は、不安意識や大学生活満足度、キャリア意識、幸福感などさまざまな要因とも関連していた。満足カテゴリに関しては、「授業他」カテゴリ、「先生他」カテゴリ、「友人他」カテゴリにおいて言及の有無による有意差および有意差の傾向がみられた。「授業他」カテゴリや「先生他」カテゴリに言及している学生は、大学での授業や教育内容だけでなく、友人関係やキャリア意識、そして幸福感においても満足度が高くなっていった。また「友人他」カテゴリに言及している学生は、友人関係のみならず大学生活全体の満足度や幸福感も高くなる傾向がみられた。

不満足カテゴリに関しては、「授業・カリキュラム他」カテゴリ、「食堂他」カテゴリ、「大学へのバス他」カテゴリ、「売店他」カテゴリにおいて有意差および有意差の傾向がみられた。「授業・カリキュラム他」カテゴリに言及している学生は、大学の授業や教育内容に対する評価が低かった。しかしながらキャリア意識は言及している学生の方が高かった。また他のカテゴリについても言及している学生の方が、友人関係に満足しており、キャリア意識も高く、幸福感も高かった。これらの結果は、大学への不満や要望をはっきりと表明している学生の方が、キャリア意識も高く、幸福感も高い傾向にあるということを示唆しており非常に興味深い。

ここまで主な結果について述べてきたが、最後に今後の課題についていくつか述べたい。本研究ではテキストマイニングの手法を用いて大学に対する満足と不満足について検討を加え、興味深い結果を得ることができた。しかしながら分析の手法についてはさらに検討を加える余地がある。本研究ではカテゴリへの言及に焦点をあてて分析を行った。したがってどのような

カテゴリを作成するかは、分析結果に大きな影響を与える重要な問題である。その意味では今回作成されたカテゴリも暫定的なものであるといえよう。形態素解析の結果からカテゴリを作成する過程については、今後も十分な検討を重ねることが必要であると思われる。

カテゴリ間の関連については、共起率を1つの指標として分析を行った。満足カテゴリ内および不満足カテゴリ内でそれぞれ共起率の分析を行い、カテゴリ間の関連について興味深い結果を得ることができた。しかしながら満足カテゴリと不満足カテゴリ間の関連については分析を行っていない。どのようなことに満足している学生はどのようなことに不満を抱いているかという知見は、学生の満足度を検討する上で重要な資料となりうるであろう。満足カテゴリ内、不満足カテゴリ内それぞれの共起率とともに、満足カテゴリと不満足カテゴリ間の共起率も併せて検討を行うことが、今後の課題であるといえる。

本研究では自由記述によるテキストデータから、大学への満足や不満足に関するカテゴリを抽出することができた。そして各カテゴリへの言及の有無を01型の2値データに置き換えて分析を行った。その際満足カテゴリへの言及があればそのカテゴリに満足している、言及がなければ特に満足はしていないという前提で解釈を行った。また不満足カテゴリへの言及があればそのカテゴリに不満を抱いている、言及がなければ特に不満はないという前提で解釈を行った。しかしながら満足カテゴリに言及していないからと言ってそのカテゴリに満足していないとは限らない。同様に不満足カテゴリに言及していないからと言って満足しているとも限らない。自由記述の時にそのカテゴリを思いつかなかったという可能性もあるからである。したがって今後は得られたカテゴリについて評定尺度法を用いて満足度の定量的な測定を行い、比較検討を行う必要があると思われる。またこのような比較検討を行うことによって、自由記述の欄に積極的に回答するというこの意味がより明確になるであろうと思われる。

引用文献

- Diener, E., Emmons, R. A., Larsen, R. J., & Griffin, S. (1985). The satisfaction with life scale. *Journal of Personality Assessment*, 49, 71-75.
- 文部科学省中央教育審議会 (2008). 学士課程教育の構築に向けて (答申)
http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afiedfile/2008/12/26/1217067_001.pdf (2018年11月4日)
- 文部科学省 (2018). 平成30年度学校基本調査 (速報値) の公表について
http://www.mext.go.jp/component/b_menu/other/_icsFiles/afiedfile/2018/08/02/1407449_1.pdf (2018年11月4日)
- 名木田恵理子・松本明美・所司睦文・天野貴司・重田嵩之・山口恒夫 (2011). 川崎医療短期大学における学生生活満足度調査結果の分析と評価 川崎医学会誌一般教養篇, 37, 103-114.
- 下山晴彦 (1986). 大学生の職業未決定の研究 教育心理学研究, 34, 20-30.
- 鈴木仰・遠藤敏喜 (2015). リベラルアーツ大学における学生満足度の構造方程式モデリング 生活大学研究, 1, 88-96.
- 田川隆博 (2011). 学生満足度の分析——名古屋文理大学満足度調査より—— 名古屋文理大学紀要, 11, 81-86.
- 安田恭子・若杉里実・榊原國城 (2007). 大学生の満足感と教育環境要因 コミュニティ心理学研究, 10, 175-185.
- 安田恭子 (2011). 満足感と教育環境要因に関する大学生の意識——テキストマイニング分析を用いて—— 愛知淑徳大学論集人間情報学部篇, 1, 13-20.
- 吉森謙・植田智・有倉巳幸 (1992). ハッピーネスに関する社会心理学的研究(1)——ハッピーネス尺度の開—— 日本心理学会第56回大会発表論文集, 189.
- 吉村英 (2015). 女子大学生における幸福の概念と幸福感の規定因 京都女子大学発達教育学研究, 9, 13-29.
- 吉村英 (2016). 大学生における幸福の概念——男子学生と女子学生の比較—— 京都女子大学発達教育学研究, 10, 13-30.
- 吉村英 (2018). 女子大学生の友人関係, キャリア意識および大学生生活自己効力感が学業成績, 大学生生活満足度および幸福感に与える影響 京都女子大学発達教育学研究, 12, 1-14.